

## 投球数と休息日について

平成 27 年 3 月 1 日配布

また、投手の投球数と休息日について、休息日が必要となる投球数は「その投手が対峙した最終打者へ投じた 1 球目の投球数が基準となる」ことが確認されました。

具体的には例えば、投手が累積投球数 19 球となっている段階で次打者と対峙し、その打者に対し 8 球を投じて合計投球数が 27 球となった場合

1. その打者が出塁する。
2. その打者が退く。
3. 第 3 アウトが成立し、そのイニングが終了する。
4. 投手が何らかの理由で降板した。

のいずれかのケースで降板すれば、その投手が最終打者と対峙した際の 1 球目が 20 球目だったため、記録上はその投手の投球数は「20 球以内」とカウントされ、その投手には休息日は必要がない、ということになります。これは、休息日数が変わる 35 球、50 球、65 球、85 球のそれぞれの上限投球数でも同様の対応となります。

※公認規定：VI-投手（d）項=42 球、トーナメント競技規則：

4. 投球規定 e 項=T-16 球

参照

本項は規則の追記ではなく、わかりにくかった規則の適用方法を具体的に説明したものです。